

こだわりのをもたせ、自己決定する力を培う
坂本 哲彦

はじめに

自己決定能力の育成のために道德授業ができることはどんなことでしょうか。ここでは、二つの授業を紹介することで、能力育成のポイントを提案したいと思います。一つは、エンカウ

の授業が盛んに行われています。その中でも「自己決定能力」を培うのに適しているのは、「ランキング」でしょう。自分なりのこだわりをもとに順位を決定していく活動があるからです。

感じられません。自己決定能力を培うことをねらう場合には、子供の身近な材にするとよいと思います。子供たちに切実感やこだわりを持たせることができるからです。

ターの手法を用いた道德の授業、もう一つは、通常の読み物資料を中心に行う授業のポイントです。それぞれに、横並びの意識の壁を崩すことにつながっていると思います。

よく知られているのは「無人島SOS」です。無人島に生活するとしたら何が必要か、最も必要だと考えられるものから順位付けするというものです。実生活と関連した材を選ぶ「無人島SOS」は設定が日常生活

通常、ランキングの項目をみんなで作るその項目をあらかじめ教師の方から提示することが多いです。時間を短縮したり、価値ある項目について検討させたりしたいからです。自己決定能力を培う場合には、その項目そのものを見

エンカウターの手法を用いた道德

と離れているので、子供たちの切実感などが「無人島」という設定ほどには

んなの話し合いで生み出すとよいと考

えます。それがその後の自己決定を、より確かでこだわりあるものにするからです。また、道徳の授業としても、項目を生み出すことに価値が見いだせます。

自由な交流におけるシェアリング
エンカウンターでは、後のシェアリングの活動が重要です。その場合、全体発表だけのシェアリングや教師の方から指定した相手とのシェアリングでは弱いです。子供自らが意見を尋ねてみたいとか、意見を聞いてほしいという相手との自由な交流の場でのシェアリングがあることが望ましいでしょう。自ら求めるシェアリングは自己決定能力をより一層育むはずで

実践例「学校に欠かせないもの」
三つの配慮事項を入れ込んだ実践例としてわたしが作ったのは、「学校に欠かせないもの」という授業です。学

校愛や学級愛をねらう道徳の授業です。

はじめに「学校にどうしても必要なひと、もの、ことはなんだろう」と問いかけて、自由に考えさせます。先生、生徒などの「人」、教科書、教室などの「もの」、そして、給食、行事など「こと」がすぐに出てきます。もう少し時間をかけると、同じ人でも「友達」「親友」などが出てきます。そして、「元気」「やさしさ」など、はじめの三つの枠には入らないものも出てきました。それぞれに、どうしてそれが欠かせないのかを問い返しなが、価値付けて広げます。あらかた出そろったところで、ランキングの活動に入ります。「自分が学校に来るときに最もこだわるもの。大切なものから順に十個並べてください」と投げかけ、通常の常識的な発想で考えなくてよいこ



とを伝えます。そしてその理由を項目の横に書き添えるように促します。

この後、前述のように、自由交流によるシェアリングをはさんで、全体での話し合い活動を行いました。その子なりのこだわりが表れている順位や理由を受け入れ認め合います。自己決定

のよさを皆で味わいながら学校愛についてまとめていくことができました。

二 読み物資料活用でのポイント

読み物資料で道徳の授業をする際にも自己決定能力を育成するポイントがあります。一言でいうと、「場面別、方法別」による思考活動を仕組むことです。

最もこだわる場面を考える

その子供がその資料で最も考えたい場面を選択して学習する方法です。もちろん、どの場面でもよいというものではありません。教師の方から価値ある場面、例えば、主人公が不十分な行動をしている場面、葛藤している場面、そして価値を実現したよりよい場面の三つから選ばせるなどの配慮をします。通常読み物資料はこの三つの場面を含んでいるものです。子供がもっとも共感する、また逆に反感を持つなど

の観点で選択決定するはずで

深めたい方法で表現する

不十分な行動をしている主人公に注意をしたいという子供は、自ずとそのことを書くでしょう。また、最後の方で価値を実現している主人公に対しては、ほめたり、どうしてそんな素晴らしい行動ができるのか尋ねたりすることでしょう。悩んでいる主人公にアドバイスしたり、また、悩んでいる主人公の心の内を吹き出しなどで想像したりもできます。鉛筆対談といって、主人公と自分が話をする形式で表現することによって、価値の自覚を深めていくこともできます。このように学び方、表現方法を必要に応じて教えていきながら、価値ある学びを実現することができるようになっていきます。

場面別方法別の学習は、いつでもで

きるわけではありません。子供たちのこだわりがよく表れる価値内容で、生活との関連がはつきりしている場合に有効です。いずれにしても、いつも教師の方から投げかけた課題を考えさせるのでは、自己決定能力は培えません。可能な範囲で一人一人の子供のこだわりをもとにした「自ら学ぶ学習過程」にすることが重要でしょう。

おわりに

自己決定能力育成には、ここまで述べた「こだわり」を持たせるなどの内面への働きかけと同時に、決定を具体的に実現していく「手順や方法」などのスキルの部分も重要であると考えます。この点については触れられませんでした。重要な課題です。

山口大学教育学部附属山口小学校